

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195900048		
法人名	北寿産業株式会社		
事業所名	グループホームわかな		
所在地	夕張市若菜8番地25		
自己評価作成日	令和7年3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvossyoCd=0195900048-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和7年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域行事へ積極的参加、協力 ・外出行事が多数 ・料理のおいしさ ・開放感のある建物 ・手厚い健康管理・医療体制 ・ホーム内行事・レク充実 ・看取りの対応と家族の宿泊室の整備

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームわかなは2016年9月に夕張市若菜地区に設立した1ユニットのグループホームで、9年目を迎えます。建物は2階建てで生活スペースはすべて1階にあり、2階には会議室や家族宿泊滞在室等となっています。事業所の特徴は、積極的な地域交流と外出支援にあります。地域の祭りや音楽会、小学校の運動会見学、高等支援校との交流会、お花見・買い物・観光地ドライブなど、毎月、多数の行事出かけています。家族外出・外泊も自由で、事業所訪問は24時間可能です。事業所のサービスの姿勢は広く地域に知られ、福祉職不足が叫ばれる中でも人員配置が充足しています。避難訓練や運営推進会議に複数の地域住民や自治体職員の参加があり、地域に愛される事業所となっています。また、令和6年度は認知症サポーター養成研修を主催するなど社会貢献も行っています。事業所の運営理念にある「笑顔とまごごろの支援」「地域に愛される施設」を具現化し、豊かな生活を利用者様に提供しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見やすいところ数か所に理念を掲示している。採用時、年度末契約更新時、研修の際に理念の説明と確認	見学者用パンフレットには、4つの運営理念を記載し、市の連絡所に設置して地域への周知を図っています。代表者は、入職時などの研修の機会に職員へ説明を重ね、理念を実践した支援となっているかを日々確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会活動・商工会活動に積極的に参加している ホーム責任者が町内会役員をしている。	祭りや音楽会などの地域イベントには積極的に参加し、小学校や高等支援校との交流も盛んです。80畳ある居間や駐車場の広さを活かした様々な地域交流活動を実施し、理念に謳っている「地域に愛される」「社会貢献」が具現化されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	R7年1月にホームにて認知症サポーター養成講座を企画、開催した。地域住民の方や企業約30名ほどの参加があり、認知症ケアの啓発や理解の促進に努めている。		
4		3	2024/3/1	運営推進会議は活動の内容を報告し参加者全員に意見をもらっている。それらの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には複数の自治体職員、消防職員、町内会役員、利用者、家族が出席し、利用状況・事故報告のほか行事等は写真を交えて報告しています。参加者全員の意見を議事録に記載して、関係者へ配布しています。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議によって情報交換をしている。また市役所への文書送付の際は挨拶、情報交換を兼ねて市役所担当者へ手渡ししている	運営推進委員会には毎回、保健福祉課の職員が複数名参加して情報交換を行っているほか、研修やイベントに積極的に参加しています。事業所主催の「認知症サポーター養成講座」を自治体の協力を得て実施しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束についての研修会を開催している。また今後外部研修にも積極的に参加している。	3か月に1度の身体拘束廃止委員会では、毎回、虐待と身体拘束に関する基本知識の確認からはじめ、主にスピーチロックについてケース事例を基に意見交換をしています。外部研修参加者からの伝達研修も都度実施するなど、身体拘束禁止の徹底理解を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度の定例スタッフ会議にて虐待防止研修を行っている。虐待についての知識を身につけ、その防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年夕張市包括支援センターが主催する成年後見制度の研修に参加している。しかし今年度は都合がつかず参加できなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って説明している。特に見取りについての対応方針などは詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際に要望等聞いている。遠方の家族は電話などで要望や意見などを伝えてもらえるよう声掛けをしている。また家族からの意見・要望があれば定例会議で話し合うよう努めている。	利用者の意見は日常支援の中から、家族意見は来所や電話連絡の際に直接聞いています。運営推進会議に出席した家族意見は、議事録で公表しています。直近では健康管理に関する要望に応え、家族の安心に繋げています。	家族意見は都度の連絡の際に確認していますが、その際に得た事業所への要望等が公になっていません。運営推進会議時に、参加していない家族からの声を紹介することで、より開かれた事業所運営を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員が必要に応じて個別に意見を言える場を設けている。 また朝の打ち合わせや月に一度の職員会議でも職員全員が意見を話せる場を設けている。	毎朝のミーティング、定例会議等では職員全員が意見を述べています。年度末の個別面談のほか、日常の意見や相談には、代表者が都度対応しています。職員からの提案で、動画による初詣や、書初めイベントを実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日勤務し利用者と過ごしたり、職員の努力や勤務実績、勤務状況を把握している。事業所として職員の資格取得に関して積極的に支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の職員会議内で毎度研修を設けてスキルアップを目指している。また今後事業所外で行われる研修には積極的に職員が受講できるように計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内研修会に参加しその際、交流又は情報交換をしサービス向上に活かしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やご本人の事前面談を通して、ご本人の要望を聞き、今までの生活を極力変えなく新しい生活に慣れていただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し要望に沿えるよう努めている。その際ご要望に応えられないことは丁寧に説明し理解を頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在まで他のサービスを必要としている方の相談はないが今後そのようなケースがあれば他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にできることはしてもらえよう場面の設定をしてはいるが、どうしても支援する側とされる側という関係ではある。「共に過ごし、学び、支えあえる」といった場面をより増やす努力が必要である。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族来所の際、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。また月に1度生活の様子や健康状態を文書で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にあった人間関係を尊重し、友人や知人に会いに行くなど積極的な支援を行っている。	家族外出や外泊に制限はなく、事業所訪問も24時間可能です。地域のイベント先で友人知人と歓談する機会も多く、他施設に入所している家族との面会など、馴染みの人や場との関係継続は積極的に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について情報連携を毎日している。人間関係が円滑に進めるよう日々注意深く見守り時には調整をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された家族の方にも年に数回の来所があり交流が続いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の希望や意向の把握に努めており、スタッフ間で共有している。意思疎通の困難な方は家族から情報を得ている。	利用者の思いや意向は、入居時の確認のほか、日々の生活の中で把握した言葉や様子を日誌に記録して、介護計画の基としています。言葉のない方には、表情や身体の様子をみて、職員で意見交換を図りながら、正確な意思確認ができるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、ご家族や居宅支援事業所の担当者から生活歴や日常の生活スタイルを聞いている。また本人からも聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常支援の中で、入居者一人一人の生活リズムを把握し、職員で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	頻繁にお会いできる家族には要望を聞き取り介護計画に反映している。職員全体のケア会議を介護計画に反映するようにしている。	毎月の会議で全利用者のモニタリングを実施しています。計画作成者は日々の記録を確認し、医師など関係者からの情報を基に計画を策定し、家族同意を得ています。介護計画は3カ月を基本に見直し、身心の状態に変化がある際は都度再策定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3時間ごとのご本人の様子やケアの実践、エピソード等を個別記録に記入している。それらの記録を参考に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や希望に応じて、必要な支援は柔軟に対応している。またご家族が宿泊できる体制や備品等を用意している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高等養護学校との交流会が不定期に行われている。今年度は2度の交流会があった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。特に希望がない利用者の方には協力医療機関の訪問診療を利用していただいかかりつけ医になって頂いている。また市外への通院も同行している。	かかりつけ医の受診は家族同行が基本ですが、希望があれば職員の代行も可能で、市外医療機関への通院も支援しています。ほとんどの利用者は、協力医療機関による週1度の訪問診療と週一度の訪問看護を利用しており、適切な健康管理・医療を実施しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	市立診療所の訪問看護と契約をしており週1度の訪問がなされて健康観察、相談をしている。またホームでも看護職員を採用配置しており、体調や些細な表情の変化など見逃さないようにし、早期発見に取り組んでいる。また変化等に気づいたことがあればかかりつけ医に報告し適切な医療につなげている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援状況に関する情報を医療機関に提供し、スムーズな看護(医療)へとつなげている。必要に応じて買い物等を行い病院まで届けている。また家族とも回復状況等情報交換をしながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化している入居者は、家族の意向を十分に聞き取り、緊急時の対応等、職員全員で共有しながら支援をしている。	「利用者の重度化・看取り看護に関わる指針」を入居時に説明し、本人・家族の同意を得ています。職員研修のほか、デスクカンファレンスを重ね、終末期ケアの質向上に努めています。看取り期を一緒に過せるよう家族の宿泊滞在室があり、長期利用も可能です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で、応急手当や蘇生術の研修を実施したが、現在受講していない職員も数名いる。再度その研修の必要性を感じる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。 近所の住民の方にも入居状況を説明し協力をしてもらえ体制を構築している。	令和6年度の避難訓練は地域住民も参加して6月と11月に実施しています。7月と11月のBCP(事業継続計画)職員研修で災害対策を確認しています。運営推進委員会に消防職員が参加し、災害に関する情報提供やアドバイスを受けています。	様々な災害リスクがある中で、職員は自身と利用者の命を守る行動が求められます。食事・排泄・入浴・外出などの支援中の避難シミュレーションを図り、職員共有や対策を積重ねることが大切です。災害の際に冷静かつ迅速な対応が図れるような取組みを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人格を尊重し敬意を払った声掛けをしているが多々親し気な声掛けになることがある。研修や会議などを通して学んでいきたい。	利用者の人格を尊重する姿勢は、理念の「笑顔とまごころ」に表し、優しい「声かけ」の実践に努めています。プライバシー保護に関しては羞恥心を与えない支援のほか、来訪者から居室内が見えないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話を通して、本人の思いや希望を表すことができるよう支援している。また押し付けではなく自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はしていない。その時の本人の気持ちを尊重して、可能な限り個性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の生活習慣に合わせ支援をし、日ごろからも清潔感を損なわないようおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また近所の理美容院とも連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	春は山菜、秋はきのこなど旬の食材を使った献立や季節行事にちなんだ献立を作って食事を楽しんでいただける工夫をしている。	食事は3食とも職員の手作りで、山菜など旬の食材を使い季節を感じる献立となっています。利用者が調理に参加する月一度の料理会や、喫茶外出、花見の映像を見ながらの茶話会など、食に関するイベントを豊富に設け、楽しく活力のある食生活を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分摂取量や食事量の記録をしている。また利用者の咀嚼力に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者一人ひとりに声掛けをし、口腔ケアをしてもらい、自力では不十分な方には職員が介助し習慣になるよう支援している。また、必要に応じて歯科医院にも送迎同行している。訪問歯科診療を利用している方もいる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意がない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	「排泄・水分・食事表」を一日ごとに記録して、個々の排泄パターンを職員共有しています。半数の利用者が自立しており、自己申告と正確な記録の整合性に課題を感じています。見守りが必要な利用者には、本人の生活リズムに沿った支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排便間隔を職員が把握し毎日テレビ体操をし腸の運動をしている。便秘気味の利用者には牛乳やヨーグルトを提供している。またそれでも排便がない場合は看護師が医師と相談し対応してる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	基本的な入浴日は決まっています。見守りだけ必要な方は極力希望に添える時間に入浴していただいています。	入浴は週に2回、曜日を決めて見守り支援しています。浴室の手すりは、目立つように色付きのテープを巻き、どの場所からでも使用できるように複数箇所に設置しています。入浴拒否者には強要はせず、気分の良いタイミングを見計らって入浴を勧めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したいときは自室に戻ったり、リビングのソファで横になって頂いたりと自由にいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し薬の提供職員を記録する仕組みをとり誤薬、飲み忘れがないようにしているが、薬の目的や副作用の周知などは皆が知っているわけではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内や自室の掃除は日常的に職員と一緒にやっている。一人ひとりの状態に合わせ洗濯物たたみ、食事の準備など生活に張り合いを持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見、地域行事への参加、秋の紅葉散策など外出の機会が多い。	外出機会は多く、小学校の運動会や盆踊りなどの町内行事に積極的に参加しているほか、10人乗りの社用車を活用して、紅葉狩り等のドライブなど近隣の観光地へ外出しています。商業施設が運行する買い物バスで出かけ、地域住民と交流する利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが利用者ご本人に金銭管理をしてもらい社会性の維持に取り組んでいる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からの声掛けを行うとともに、会話が他の入居者に聞こえないよう電話をする場所にも配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節感を取り入れるため季節ごとの飾りつけをしたり、お花を飾ったりしている。また特に清潔を保つよう努力している。	天井が高く採光も取れる玄関ホールから続く食堂・居間は、多目的ホールとして地域交流の場ともなります。廊下の複数箇所にソファを置き、利用者や訪問者の歓談の場となっています。年に2度、利用者も参加した大掃除で整理整頓を図り、快適な環境を提供しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内各所にソファを置き気の合った利用者同士おしゃべりしたり思い思い過ごしていただける工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンスなど使い慣れた物を使っていたいただき居心地の良さを感じてもらえるようにしている。また写真やお花を飾るなど居心地良く過ごしていただけるよう支援している	居室は7.3畳と広く、使い慣れた大型のタンスを持参している利用者もいます。寝具は備え付けベッドもあり、選択は自由です。家族写真や仏壇を飾るなど、本人の好みに合わせた空間となっています。利用者と清掃と一緒に行うなど、安全な環境・清潔保持に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりが設置している。車椅子の利用者は可能な限り自力で移動し自立した生活ができるよう職員が見守りながら支援している。		